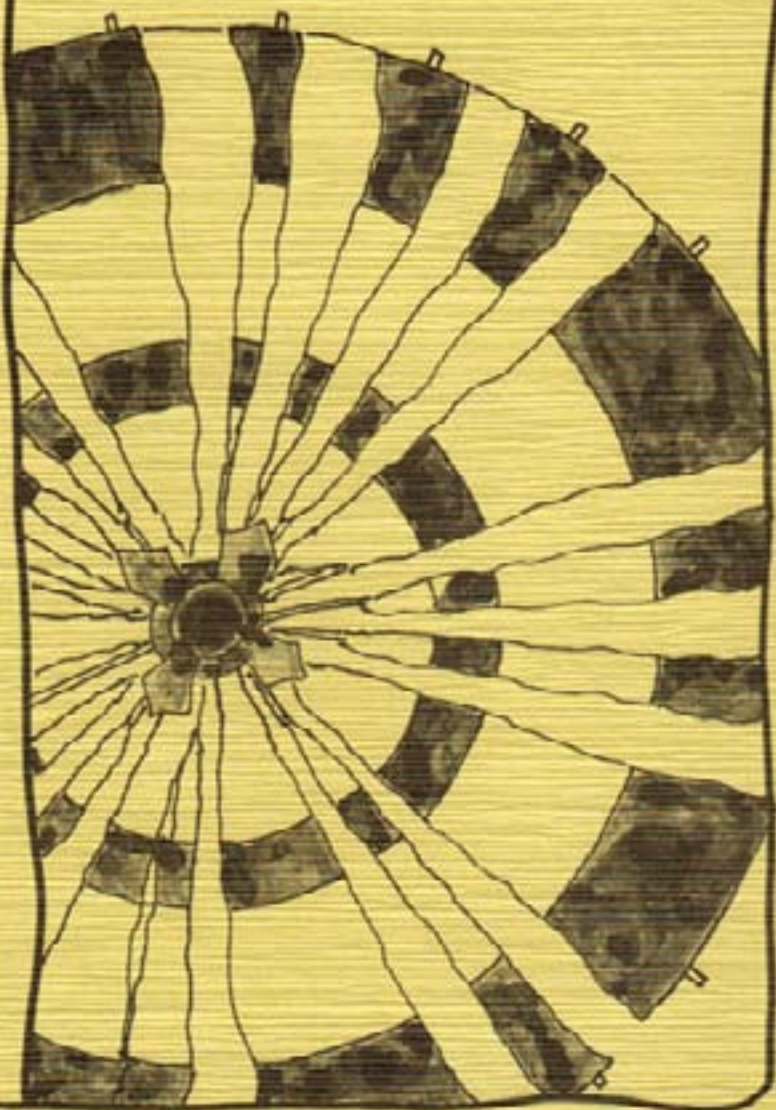


やぶれ傘



一一三三号
二〇二〇年四月

土佐水木土管をぬらしあがる雨 根橋宏次
 啓蝨の砂場に砂の山ひとつ 大島英昭
 花壇よりはみ出してゐる犬ふぐり きくちきみえ
 鳥帰る山近ければ雲低く 廣瀬雅男
 手にコーヒーステルカラーの春コート 青谷小枝
 畑中にほつと外灯梨の花 藤井美晴
 杉菜生ふ鶏肉店の裏の道 瀬島酒望
 裏返る幟の文字を読む梅見 井久保 熱
 丸見えのスポーツジムや猫柳 渡邊孝彦
 囀りの一樹となりの一樹にも 安藤久美子
 春の夜半おくび出さうとしてゐるが 小山よる
 春嵐赤城山から土ほこり 白石正朝
 綿菓子に子は口寄せて花の茶屋 天野美登里
 早蕨を小箱に小銭入れて買ふ 秋山信行
 初蝶の通りを渡りきるあいだ 有賀昌子

抄集句傘紀 大崎

野天風呂ほころぶ花を眺めつつ 松村光典
 雪を掻く見知らぬ人に会釈して 萩原久代
 辛夷散る信号待ちの足元へ 橋本美代
 気がつけば土筆探しの日となりて 武藤節子
 手で計る川の水温春めきて 村田 武
 出て見よと夫の知らせる冬満月 山本久枝
 ガラス戸の日当たるところ冬の蠅 石原健二
 リフトの足ふれんばかりに鼓草 稲田延子
 紙コップの白湯の温もり春の昼 神山市実
 踏み入りて節分草とたしかむる 倉澤節子
 水温むオール捌きの軽やかに 齋藤朋子
 白梅をぼんやり眺め日曜日 坂本和穂
 たしかめに何度も外に春の雪 藤崎志津子
 蒲公英のところまで止る車椅子 中島和子
 車窓より雪の山並み送電線 買井照子

春 昼

大崎紀夫

鮒釣りがみごとな鳥貝を釣り
亀が鳴き八ツ橋歩く鳩がゐて
白木蓮こぼれきつたるかにこぼれ
港より昼の風くる黄水仙
日がかげりそのまま暮るる雪柳

春昼のマンション避雷針二本
川岸へぺんぺん草は鳴らぬまま
鳥帰る風はさらさら竹藪に
朝のカフェオレすぐそばにミモザ咲き
たんぽぽも杭も真つ昼間の空地
ときをりはきらと波打ち際の蝶
真昼間の桜三分の枝が揺れ

土佐水木

根橋宏次

さかさまに叩く屑籠寒明くる
 まつしろなうめがいくつもひらきけり
 リハーサルルームに鏡冴返る
 ややとほく春の岬の浮かみをり
 アンテナにいつたん止り巢立鳥
 腕夜の本のかたちの洋酒瓶
 地魚は盛られ眼張は並べられ
 黄水仙雑器ばかりをつくる窯
 仰向けに巣箱の下をとほりけり
 土佐水木土管をぬらしあがる雨

砂場

大島英昭

小松菜が少し残つてゐる畑
 そば処前に灰皿寒明ける
 シラカシもスギも名札を提げて春
 犬ふぐりいつからとなくこの丸太
 川に向く干し物二列春ならひ
 下萌えに少しかかれる水たまり
 豚舎より向うひろびろ麦あをむ
 フットサルコート三面鳥雲に
 とろとろと水は流るる蝌蚪蜥
 啓蟄の砂場に砂の山ひとつ

寒の雨上がりて鳩の地に群るる
幼子に鳩の寄り来る春隣
露味噌の匂ひ厨に満ちにけり
もこもこの土踏み行けばいぬふぐり
春の雪特に用事の無き日なり
鳥帰る山近ければ雲低く
荒川の土手に雲雀を聴きにけり
揚雲雀雨の来さうな空模様
飛び石に白木蓮の散りにけり
花を見るただそれだけの遠回り。

鳥帰る

廣瀬雅男

犬ふぐり

轉りのときに争ふこゑかとも
サイレンの鳴りたる方に春の空
捨て鉢を濡らしてゐたる春の雨
雀らのこゑに揺れゐる柳の芽
紙飛行機の先端は草萌えに
蕾より食べられてゆく花菜漬
階段は海の中へと望^{しおまねき}潮
花びらの冷え冷え開く紫木蓮
段々と街の消えゆく春夕焼け
花壇よりはみ出してゐる犬ふぐり

きくちきみえ

春夕焼

青谷小枝

土雛の紅のくろずむおちよぼ口
日脚伸ぶ雑木林に喫茶店
パンジーの花殻摘んで猫に水
よく晴れて今日はもう散る白木蓮
手にコーヒーパーステルカラーの春コート
春の風玉子サラダにブロッコリー
土手青む山鳩の声やはらかく
蔦芽吹く元食堂の今空き家
ひとつまみほどの富士あり春夕焼
梢より櫻芽吹いて鳩鳴いて

梨の花

藤井燐晴

しはぶきが公民館の和室より
安吾忌の紙飛行機が風に乗る
にはとりのぬない鶏小屋春疾風
空き箱に猫が寝た跡雪柳
春泥はてらてらタイヤ痕深く
行きかけて立ち止まる猫うまごやし
赤茶けて鉄路の砂利のかぎろへる
花蘇枋運動場につむじ風
畑中にぼつと外灯梨の花
Y字路の角の花屋にチューリップ

杉菜

初午の昼餉を王子界限で
 初音聞くだらだら女坂ゆけば
 酒林下がる酒蔵枝垂れ梅
 初音聞く武州重忠館跡
 ほんわかとほんわかと雲藪椿
 春浅し何か積み込む貨物船
 指の出る春手袋を買ひにけり
 その先に漬物工場霜くすべ
 隣でも木魚の音が春の葬
 杉菜生ふ鶏肉店の裏の道

瀬島酒望

梅見

寒雀の一尺横を歩きけり
 パラと来し時雨帽子を目深にし
 イースト菌の匂ふ店先日脚伸ぶ
 幼子が絵本をめくる冬日向
 裏返る幟の文字を読む梅見
 坂道は自転車を降り梅の花
 薔薇の木を高さ二尺に剪つて春
 寺はけふ閉門梅の花咲いて
 啓蟄や介護車のドア開けられて
 雨戸開け東風の強さに吹かれけり

丑久保勲

猫柳

渡邊孝彦

寒の雨鴉は木から木へ移り
雪催ひ危ふく人にぶつかりさう
豆を撒く一部屋ごとに豆五粒
畑隅に物置そして梅の花
木の根道上り下りして梅林へ
丸見えのスポーツジムや猫柳
真上から鶯のこゑ雑木山
柵内の青踏みゆけば川べりへ
たんぽぽ黄車両通行止めの道
枝々に辛夷の蒼昼の月

春キャベツ

安藤久英子

歩を緩め二月の風を正面に
てんこ盛りの春のサラダをがしがしと
刃を入れる時のためらひ春キャベツ
窮屈な鉢に育ちて黄水仙
沈丁が咲きさうへりが低く飛ぶ
コニヤック入りチョコを一粒風光る
カフェラテの花柄すする春の昼
啓蟄の土を啄む鳩の群れ
春めける庭ひとめぐりふためぐり
轉りの一樹となりの一樹にも

春嵐

白石正躬

マラソンに白菜ひとつ参加賞
探梅の坂下り来て二輪ほど
梅の木の根元のそこら露の臺
草青み犬が嗅ぎゆくもぐら塚
山裾の焼場に煙木々芽吹く
風もなく雲もなく晴れ梅咲いて
白梅に月の明るさかかりをり
春嵐赤城山から土ぼこり
土手に出て春の日差しを受けにけり
茎立ちの畑のわきをバスが行く

春の夜半

小山よる

向かうから何か転がる余寒かな
春寒の何にも音がしない夜
階段の前行く人は芹持つて
あんぱんをかじるバレンタインの日
ささくれのつゆも治らず冴返る
定まらぬ座椅子の角度春の風邪
蕾のと咲きさうなのと花水木
ビル裏に花大根の咲く斜面
たんぼぼはこんな隙間に密集し
春の夜半おくび出さうとしてゐるが

綿菓子

天野美登里

城跡に夕日の残る寒堇
せせらぎは沈下橋へと雀の子
朧夜の信号やがて点滅へ
春寒の橋脚を波高く打つ
小米花潮のほへる昼の川
刑務所の前にポストや春吹雪
かはたれは川面にうつり葦の角
雉子ときに明るく鳴いてたそがる
陽炎や列の頭に霊柩車
綿菓子に子は口寄せて花の茶屋

早蕨

秋山信行

凍て雲の沖に来てゐる野辺地湾
飛行機の雲に消えゆく雪もよひ
冬耕のときをり解す土の塊
料峭の土手に吹かれるレジ袋
受験子のことには触れず電話口
名を呼ばれひと言ハイと卒園児
桜狩りの後はいつもの干物屋へ
廃屋の崩れし軒に雀の巢
早蕨を小箱に小銭入れて買ふ
菜の花や向かうの岸はとうに暮れ

初蝶

有賀昌子

干す足袋の小鉤きらきら寒椿
白壁に日の影うすく二月かな
風のごと猫が通りをゆく二月
亀が鳴くばたんばたんと木戸が鳴り
金縷梅や綺麗に焼ける卵焼き
待ち合はす駅のホームは春隣
春の雪金剛力士像半裸
梅咲いてマンションの窓開いてゐる
初蝶の通りを渡りきるあひだ
木の芽風ガラス細工の散らばりて

沈丁花

松村光典

沈丁花ちひさき庭に香を満たし
どこからか焼き芋匂ふ日暮れかな
雲間より覗きはじめる春の空
木々の先芽の膨らみは確かなり
何となく気持ち明るし日脚伸ぶ
立つ春や白き満月白き雲
野天風呂ほころぶ花を眺めつつ
沈丁のつぼみ零れる草のうへ
風強く日差しもつよく銀杏萌ゆ
隠れたくなる春昼の陽射しかな

◇5月・6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいソバル	WEP編集室
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島 英昭
	6日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	辻久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井 美晴
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいソバル	廣瀬 雅男
	23日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	29日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
6月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン4	辻久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	あいソバル	WEP編集室
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島 英昭
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井 美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	皇居・二の丸公園	辻久保 勲
	27日(土)	AM10:00	楽天会	あいソバル	廣瀬 雅男
	27日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

5月のNHK教室は5月29日(金)です。

6月21日(日)の吟行。集合は10時。

集合場所は皇居・大手門前＝パレスホテルの前。

吟行地は皇居・二の丸公園。

句会場は森下文化センター・第1会議室。(半蔵門線で移動)。

○連絡先

秋山 信行	☎ 048-874-0555	藤井 美晴	☎ 0422-55-2733
大島 英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬 雅男	☎ 048-443-7522	辻久保 勲	☎ 048-853-3856
湯本 正友	☎ 048-833-7354		